特別
196
国
2
354

文政癸未春
金華六世
雪嶺
寫之
法橋堂工軒

40.8.26
ア306531

藤屋染寝巻乃曇

全部六冊

文政癸未春

双鶴堂上梓

隅田川保国が恵家桂の帯も妻は昌織の前。あやの乃言葉に錦をかざり心の中は家閨を法ろうじさんとユーも。遂ひの花乃皮衣殿と岩ー南庵は狐の性法を君が寿戎神のさも旭海前の脳の火も燃る赤地の錦手織辛ー軒端の門遠ひ金ーあれそのげけ方は不義は雑夫呂ひの土は扉が心もりの紐帯と西人は是を紙の深市世は早衣と是も名乃紀金國の色はそまるも紫はの花の藤屋の喜ー所と隠ひ蜜衣深撫稲生まーがらは人ひ乃ーもそられね義理ぜくは二度ーを桂衣ーもて形乃白ーも安信の家智は伝説と乃は喜国前二世の縁と表頭傳りね

玄光亭金墨誌

井形上任
女達異の於風

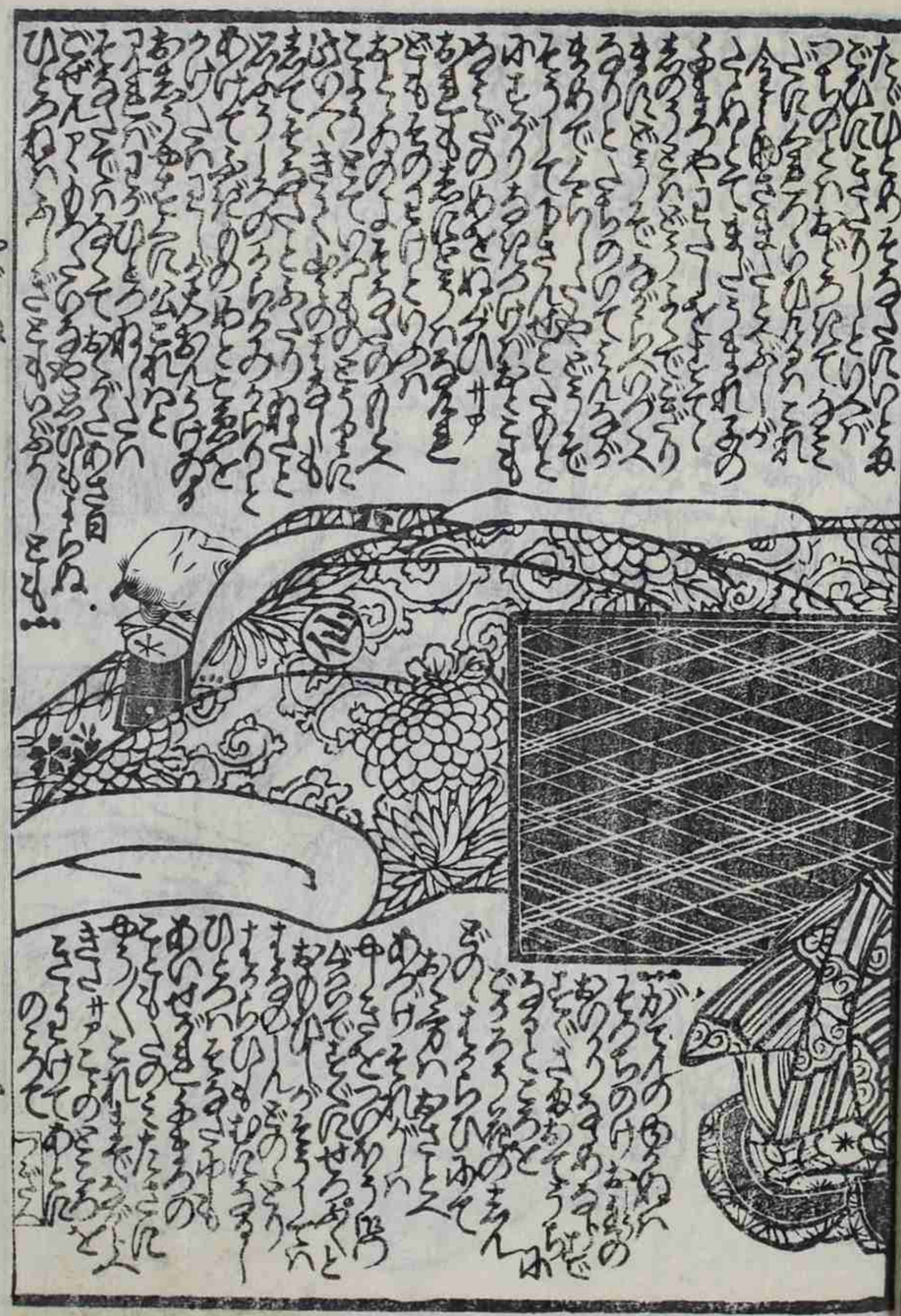
其角

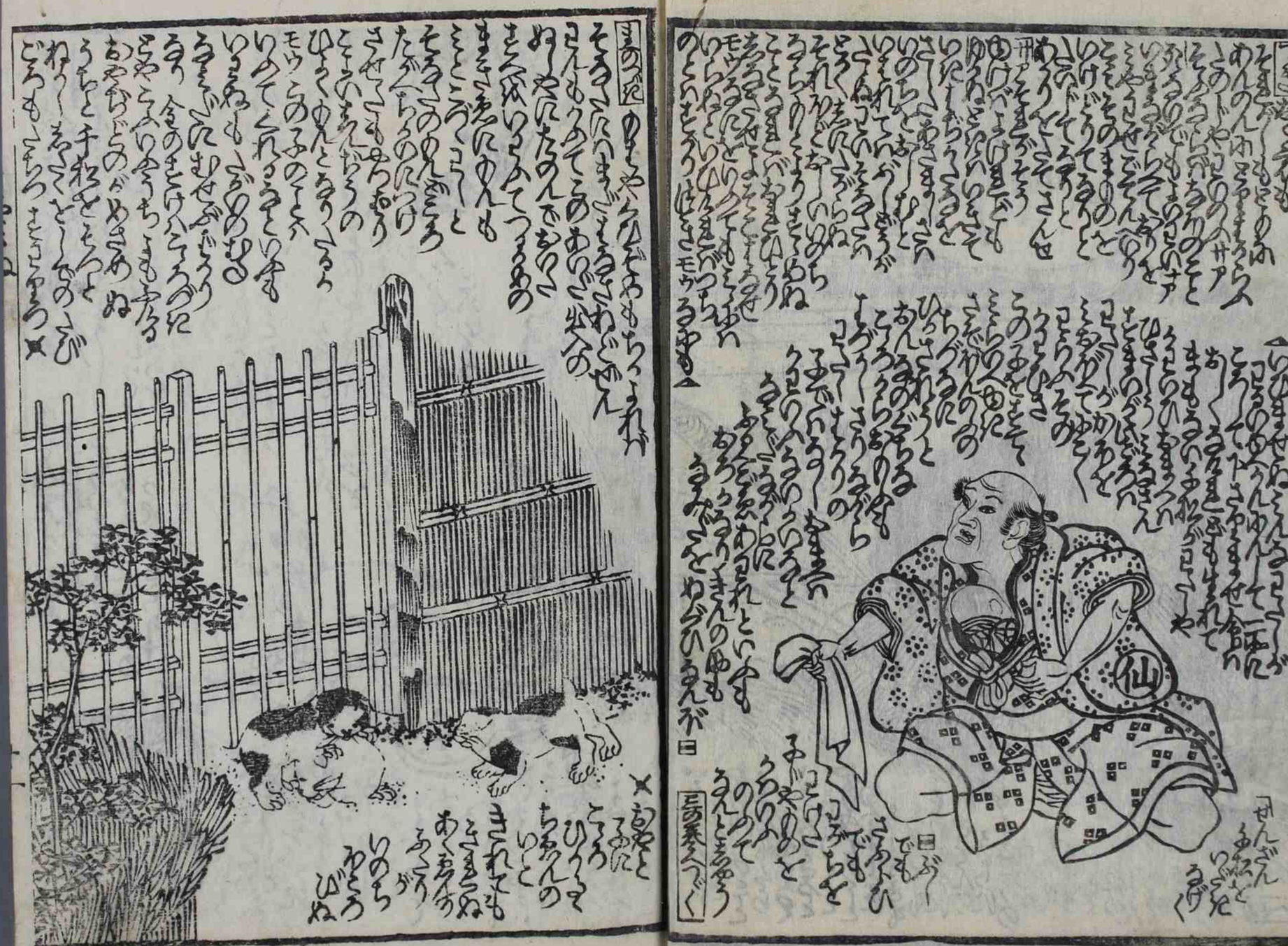
芙屋
早
小春
嵐声
喜之助

仙山が造の木亀ハ八宿
八人の男女を載りて
化とうをする
彫物師仙山黄安仙之
安倍家浪人
稲妻雷蔵

術ヲ得テ自不龜ヲ
彫刻シテ則其龜ニ乗而
遂ニ空中ニ入
仙山が孫
千松
後の
亞の
大八

敬
祝
相後
祈
安




仙

国文
24L
4-3

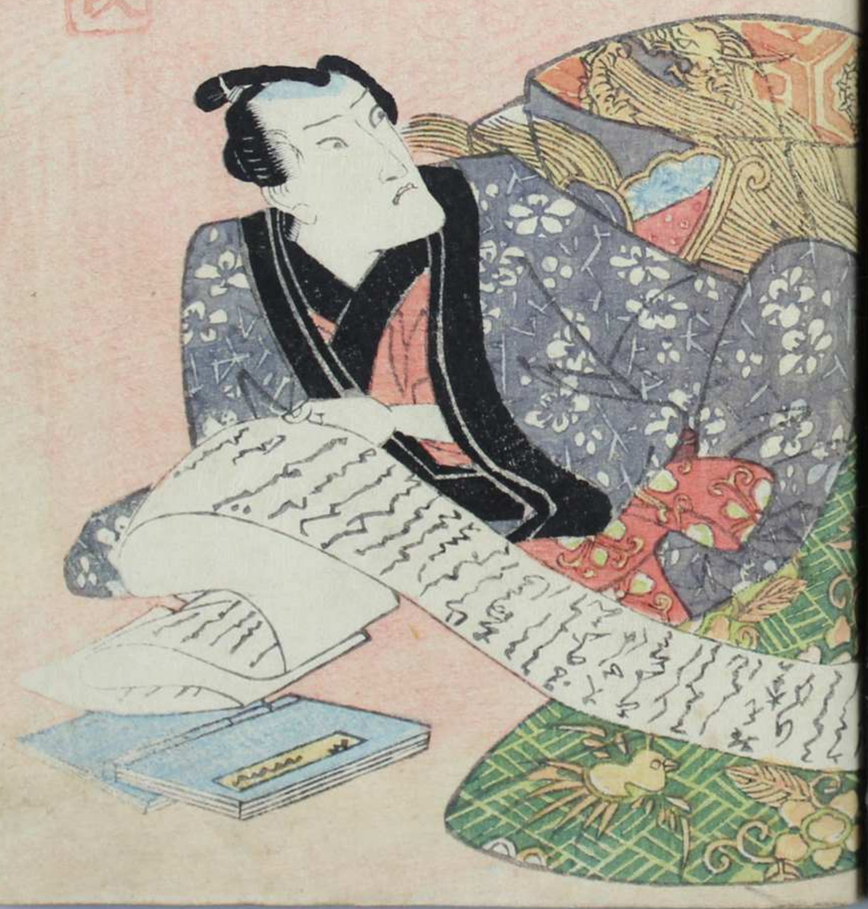
「あのをぶ
つまも藤
二ふと
つまそ
ゆくを
ゑけちらして
ものの
さきを
つけねらふ

藤屋染

寝巻乃

暁雲

鶴金板



それうすぶのハちゑ〳〵
たうぐとまゝのあるたあるよ
こどものはたもやされつぶてうそど
うまこうかく〳〵のかせまり〳〵
きゆうらんつのうめそや
ほんがうるまびあるゆく
なりうぐりてあるられるるうや
さるたあのふりこゆて
うるひぶりたちゝたるる
このところ〳〵うり人のねゑと
いものそうりうりうるたる
女のちぶいうるころふは
あるこのうたごとれば
いわるけこまこをうあげ
女のちぶのとこれば
きちぶこのそれうまこども
あるこるさるたいるれぬ
こけあまびちぶいと
そのてんへうもり
そのるあこるぶあへ
つまこうりのちのは
うぐーてそぐてくる
○こうに来ちう江戸
ちゝあてふ小どうぐ

つぐゑ

すちやこうね

「あぶなけれども
えのことをらまれさ
ぬ」

「あぶなや
くも」

つぎ　このあとの毋いあさひ
ごぜんよりいでんし
そうぐえんのうくめてはあり
さるのめどまのまけに
めやらるつかりゆうり
ところきのさけくやと
ようこひがらがの
由うぎよやへ
あさろうにあたる

きん
をき
くふ
のぶ
ゐぐ
つる
そん
ん

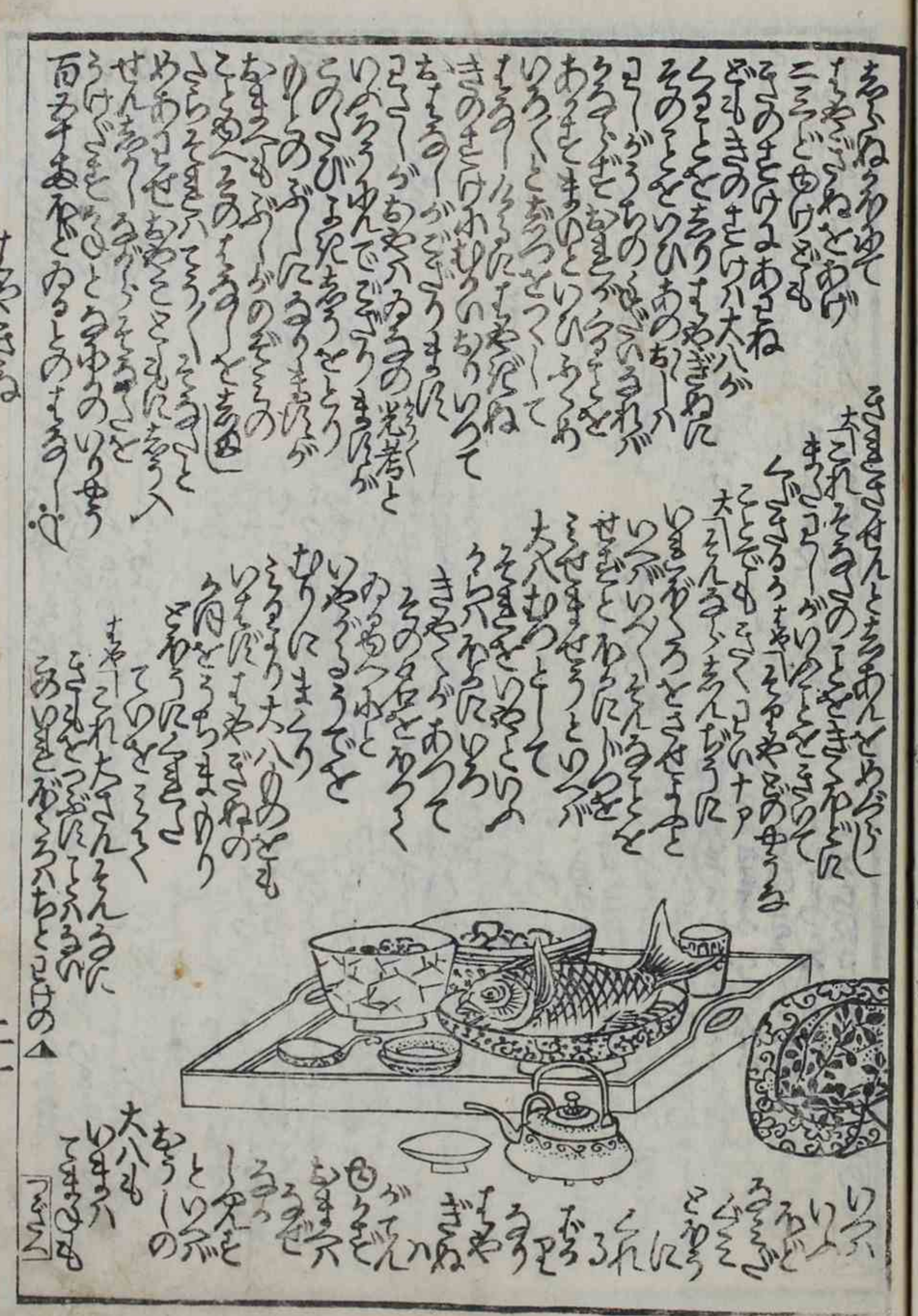
毋「モシ」おもしろの
あつくりいつ
まぜうりいつ
りのわど
るくぐの
ふひまく
ふひごもえ
あさば
ゐさろ
りがい
ぐにもの
ぐさまて
こまろら
のつまえ
ものでろ
ぐさまず
ものでのやめ
あさのごん
さまるつ
どつひもの
まこめばう
ぐろまうと
しまばあさひ
きものとも
ぐにこの
まばそまう
ぬ
○それまうこのあぐやにまろ兄なまぐど

ひぐようの
ろれこれば
ろぐさまぐでらに
ひぐろてまつ
ごとのまろえとほめ
月日をかろくるよ

まるたこまぐも
あらやさえ
うまぐたらまで
あるこれまり

つぎ　このあとの世わあさひ
ごぜんふむろいぶん
そうぶんのうめてもあ
さうのねどあのさけに
めやうやうつりふうう
ところきのさけのと
ろうろひがくがの
四うぶうまへ
あさうひにめれ

つづき



つゞき さつくやまで
そバにおつくる
あそびりて白じく
かれさま〳〵その
うでのいれぼくろ
つちのとおる定六
おまへ六コラしがちもて
じやく人〳〵ごがうまれて
百日さそねぞのうちよ
ふさわのむつされ
じよちゆふハさい今をゆ
まへハきをうとらそその
つちのとおうきさ六
うふつくはけふさるや
あんでそのおとぞだくさぶ
ヨろきものうみしされ又も
よにでもおこれをせうそと
おふさうのうでにそのうを
あるしおつくらいやまて
そのびくらあがひろうるんざさ
ちくれにまつてコモてよいねの
ちとのますせそぞそて西てよ
このせうわそのここゐおうし
こそゆんぐんうぞらちくせうざうに
あるしもこのこのおんぐハあれど

そまへハさつしおたちりいつて
おまへにうのさうごさうまへにて
ふんじうらきりてそうございませ
コヲさハだにそでてらき
十三のごうよ又はらあるとも
いれコふれいのむであててみる
ふだやのせんぞる
いやさんぐうら
うさくさわぐりけるあの
うらでコラしとらるけて
いかわうさころコヲ
うちもおもハぜけ
きろまねちつの
まこのそうコちい
そうぞとつきこられて
あろく
そふきこの
ごおんを
うけるあれ
ぜん六

きてのねんさされくさの
わとみいまのきの氏に
こまてそてもようせうの
そさのひろひてもとりの
こそこのきのさとけさおが
おまへをとうくいひもじて
おまへにさろかれあんくさつ
おさくろとおれのそうあふき
わるいひとのづけもうちふわれ
せうでつまつてもふくろさんの
いつうわうの六あさひさぞう
いひコトけさて御かぜひろさう
まるでいひまのみまれどそこ
まそきの助のかみとされてる
きさのゆふうこうまりまつさる
あさとかきさこうろとコラしがいひ
むせひくいひうきこ
ぐにせまるこのかぶちうく
おとのひきろてされまんとりの
大六ろくさびるれきて
うぞらにこられけり

五のまき

さるくれ五斗のさとけ八かうので
いひあうせ〳〵かるのうの大六
よりのあのさろときてくく
おそのひあるよこひがうぶん
ゆりんさきうきちゆそてゐる
ののぶでかいけんうりとまうけ
しさいろうくうえさきさう盃
女ごそのすさ死のおかせ
ごとどうりかまて
わろのころのめを
さんぐよおのちう
せがまるくなうくの
てのかそゆけ
さうねきの定六
あのひゝがけろす
ことまろくうされ
ありせよもりひぜんくの
れのそとのでていろかうハ
おろて六ごうてろさり
ますそねがあうかごう
ぜんじまてこのうへごそても
あさのこやまれるそゆるぞ
おちろう死やもれのうちくよ
こ〳〵ひとうかけくうごさう
ますとそこのちのやまで

ありでろうまてくごさうまぜ
きいつくつろう八さけとのらへ
そそけんろのろうろく
そのトねるえぎろきろあへ
き〳〵まつてごごうのまくか
そのおれのとれでハ
ござうまぜんろかまも
こぞおちうかぐ死の
こふあもてあせ

きハイコさてくるへ
ゐろろうあと
いうまぞる
えうやや
ござうきす
ふだやの
きのかとへ
いかの
このろへ
こそも
おとき
らうさう
くご
まぜ

ぞさらせ
かまわると
むつかさてあて
ちやくさいのうさけ
くろかう〳〵ちそうぞとある
きのきとけがうおとうりうくぐとそて
くぜろおまへ六ごとのかまいまそで

わどいまへ
ありまやでござろへが
うまれいのらくろ
あごろかへ六まろのかみ
こえいもすぞ
とりくまで
きのさう
あぶろりや

ござる

つゞき

つづき

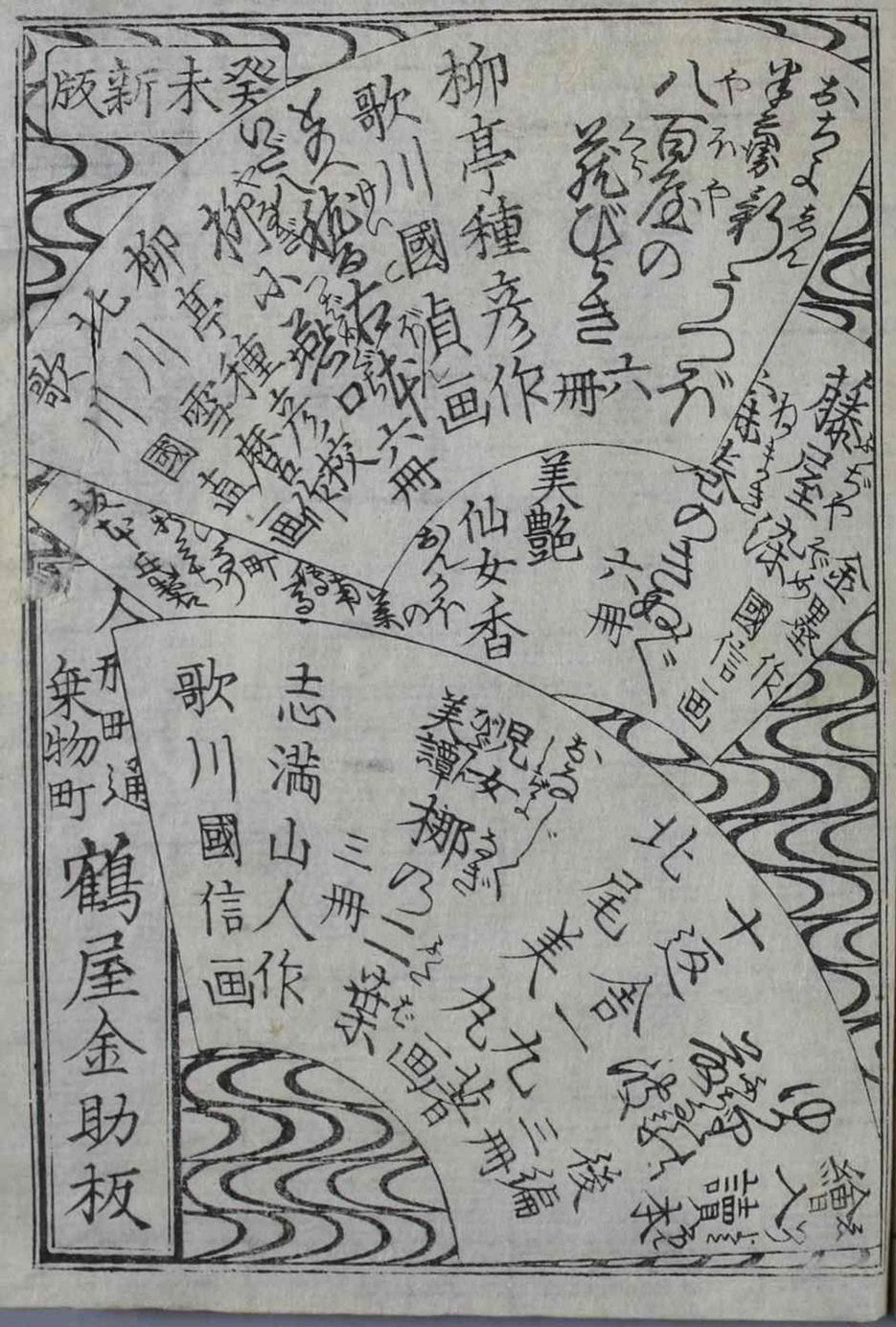
つゞき
ヤア
保
雷
乱

旭
早
乙

國信画

玄光亭戯作

筆耕道友


八百屋の
花びらき
六冊
柳亭種彦作
歌川國貞画
美艶
仙女香
六冊
歌川國貞画
志満山人作
歌川國信画
新版
癸未
歌川國信画
柳亭種彦作
歌川国貞画
歌川国信画
歌川国貞画
歌川国貞画
歌川国貞

文
図書
年度